

# 窓辺

あんどろ  
安藤 隆敏

## 分布広げるチョウ

### 「ムラサキツバメ」

浜松科学館開館から30年という時間の中で大きく変化したものに自然環境があります。当初はまっさらの

らがなければ、レイチエル・カーソンの言う「沈黙の春」の状態となっていたでしょう。

場所でしたが、浜松ロータリークラブの支援を受け、サイエンスパークや「友愛の森」と呼ばれる自然観察園を整備してきました。現在、植栽した樹木種はニュートンのリンゴの木を含め89種を数えます。

樹木の成長は野草の繁茂を促し、昆虫や野鳥を呼び込み、豊かな自然の形成につながります。もし、これ

2015年度は折に触れて、館周辺の四季の変化を写真に収めてきました。植物との関係が深い「チョウ」に注目すると、確認したものは20種。その中でも特に惹かれたのはムラサキツバメという、羽を広げた大きさが4センチほどのチョウです。

方が分布の限界と言われていました。ところが、サイエンスパークのマテバシイの葉に産卵していたのを見つけたのです。幼虫は葉に切り込みを入れ、ふたをしたらような巣をつくり、アリと共生しながら大きくなります。

14年度まで勤務していた萩丘小学校（浜松市中区）やその学区の公園でも確認していました。マテバシイやシリブカガシの植栽や気候の温暖化と相まって分布を広げていると思われる。一見か弱そうなチョウですが、したたかに生きている一面も見せています。

（浜松科学館館長）